

令和2年度(令和元年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 14-011

PDCA	事務事業名	ごみ収集運搬事業	部課等名	市民経済部 クリーンセンター ごみ減量担当	担当	深川	
					内線等	23-3567	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第3章 にぎわいの創出と良好な環境が両立するまち 節： 第2節 環境との共生 基本施策： 2. 廃棄物対策 単位施策： (2) 廃棄物の処理 個別施策： ②廃棄物の適正処理					
	根拠法令等	半田市廃棄物の減量及び処理に関する条例					
	対象・目的	家庭のごみや資源を速やかに収集することにより、街の美化に努め、市民の生活環境の向上を図る。					
	目的を達成するための手段・活動内容	・ごみステーションに出されたごみ等の収集 ・収集車両の適切な維持管理 ・粗大ごみの戸別収集 ・委託業者への指導 ・ごみ袋及び指定資源回収袋の適切な管理					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績	29年度	30年度	元年度	単位	
		①ごみステーションから収集した家庭ごみ総量	22,674	22,639	22,634	トン	
		事業費	253,821	236,707	279,609	千円	
		人件費	21,256	10,372	11,840	千円	
		総事業費	275,077	247,079	291,449	千円	
		活動単位当たりのコスト	29年度	30年度	元年度	単位	
		①市民一人当たりのごみ収集運搬事業費	2	2	2	千円	
	成 果	成果指標	29年度	30年度	元年度	単位	
		①ごみステーションへの不適正な排出の削減	実績値	155	147	160	件
			目標値	145	140	140	
			実績値				
			目標値				
			実績値				
			目標値				
C 課題の整理		観点別評価	必要性	有効性		効率性	
	①市の関与の妥当性		妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ある
	②市民ニーズ		高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更	
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	ある
	事業の評価・課題	C 委託収集業務を計画的に実施したことで、家庭から排出されるごみや資源を適正、かつ速やかに収集し、処理することができた。ごみステーションへの不適正な排出については、目標値は達成できなかった。自治区や住民と連携して、看板などによる注意喚起を行い、不適正排出の未然防止に努める。					
A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	改善推進 安全・円滑・効率よく適切な収集業務を実施することにより、家庭ごみや資源の適正処理と街の美化に努める。令和3年4月から開始する家庭系ごみの有料化に向けて、一般家庭向けのごみの出し方冊子のページ数を増やし、住民に適正な排出を啓発する。					
	令和2年度の目標	成果指標	目標値		単位		
		①ごみステーションへの不適正な排出の削減	140		件		